

2023年5月1日

## 神戸学園都市 YMCA こども園 5月えんだより

5月の聖句「主よ、お話してください。僕<sup>しもべ</sup>は聞いております。」

サムエル記上3章9節

新しいお友達や先生たちを迎えての入園、進級から早やひと月が過ぎました。昨春と異なり、今春は短い周期での天候の変化のため、園内で過ごす時間が多くなっているように思います。そのような中ですが、少しずつ新しい環境や生活にも慣れ、こどもたちの笑顔が多くなってきています。

親から子へのしつけや小言。受け取る側にとっては、「耳が痛い」「耳にタコができる」ことが多いものですが、全く同じ内容でも「耳に刺さる」「耳に届く」こともあります。

初めて免許を取って車に乗る始めたころ、車で出かけるたびに「くれぐれも安全運転で！」と母親から「耳にタコができる」ほど言われたのを覚えています。その時の返事は「わかってる！」で、時には「もう、わかってるって!!」とまでの心無いものでした。けれども、その報いとその後の私に降りかかりました。山道を友人と共に走っていた時に対向車と衝突するという事故を起こしてしまったのです。幸い、双方の車とも命に係わるようなことはなかったものの、この時初めて親の言葉が耳に届き、刺さりました。「安全運転しとけばよかった。」と。事故を起こすまではまだまだ親の言葉を受け入れる準備ができていなかったのです。

その後の日々の歩みの中でも、多くの方々から様々なお話を伺ってきました。それぞれが「耳が痛い」ものであったり、「耳に刺さるもの」であったりしました。この「痛いもの」と「刺さるもの」に分かれる原因は、語る側ではなく聞く側にあり、聞く者が語る者の言葉を受け止めることができなければ「耳が痛い」ものとなり、受け止めることができれば「耳にささる」ものとなるように思います。

こども達、保護者の皆様、そして、私たち職員も新年度の新たな環境の下、あわただしい毎日を送っている中で周りの声に耳を傾けることができなくなりがちではないかと思えます。

人が声を発するのは口からだけではなく、ある時には目から、またある時には手足や体全体から発することもあります。このような耳に聞こえない声も、そして何より、目にも見えず、耳にも聞こえない神様からの声を聞き逃すことがないように心静かに祈りつつ、新しい毎日を歩んでいきたいと思えます。

5月	乳児 (0,1,2 歳児)	幼児 (3,4,5 歳児)
月主題	なんだろう	感じる
月の願い	*神さまの守りの中で、「なにかな?」「おもしろそうだな」と周りの様子に目を向けながら、好きなあそびを見つけて過ごしてほしいと思えます。	*友だちや保育者と一緒に過ごす中で様々なものに目を向け、「おもしろいな」「たのしいな」と感じ心を動かしながら過ごしてほしいと思えます。
讃美歌	「ひとりひとりのなをよんで」 幼児讃美歌 1120	「どんなにちいさいことりでも」 こども改 58